

地域の当事者づくり

—中川運河オープンディスカッションの試み—

内山志保・竹中克行

空間コード研究の概要

人と土地との関係を紡ぎなおすための方法論の提案
地域のらしさを可視化し、多くの人の手で継承・進化させる

【空間コード研究の2本柱】

①地域の持続的景観システムの可視化

自然と人間の相互作用が獲得した固有の価値や空間的まとまりを空間コードとして言語化する。

②分析結果の計画論への橋渡し

当事者を識別し、当事者主体間の結びつきを促す。



オープンディスカッション



竹中克行編著
『空間コードから共創する
中川運河』
鹿島出版会，2016年

前段階としてのインタビュー調査

『空間コードから共創する中川運河』 第Ⅳ部 中川運河の隣人

空間コード研究を進める中で、中川運河らしさを構成する要素として「人」に着目し、インタビュー調査を行う



- 住民、事業者など 10 名
- 運河まつり、労働や遊びの記憶など、継承されているものの発見
- 運河と人との結びつきの現状把握



当事者の発見・確認作業としてのオープンディスカッション

【主なねらい】

- 中川運河に主体的に関わる意思をもつ当事者相互のつながりを生みだし、地域らしさを継承・進化させるための議論を活性化する。
- 中川運河の来歴から現代人にとっての資産を見つけ出し、将来につなぐ。
- 議論を通じて、都市づくりの意思決定を進める際に取り上げるべき論点を示す。

【文献】

桑子敏雄『わがまち再生プロジェクト』角川書店, 2016年
法政大学エコ地域デザイン研究所『水の郷 日野』鹿島出版会, 2010年

当事者の発見・確認作業としての オープンディスカッション

【中川運河が持っている条件】

- ・公共財産、産業インフラとしての特性
- ・新旧の中川運河の隣人
 - 地域住民や沿岸事業者
 - 新たに関わりを持ち始めた人
- ・歴史、観光、経済、芸術など様々な角度からの関心

当事者の発見・確認作業としてのオープンディスカッション

・登壇者の選定方法

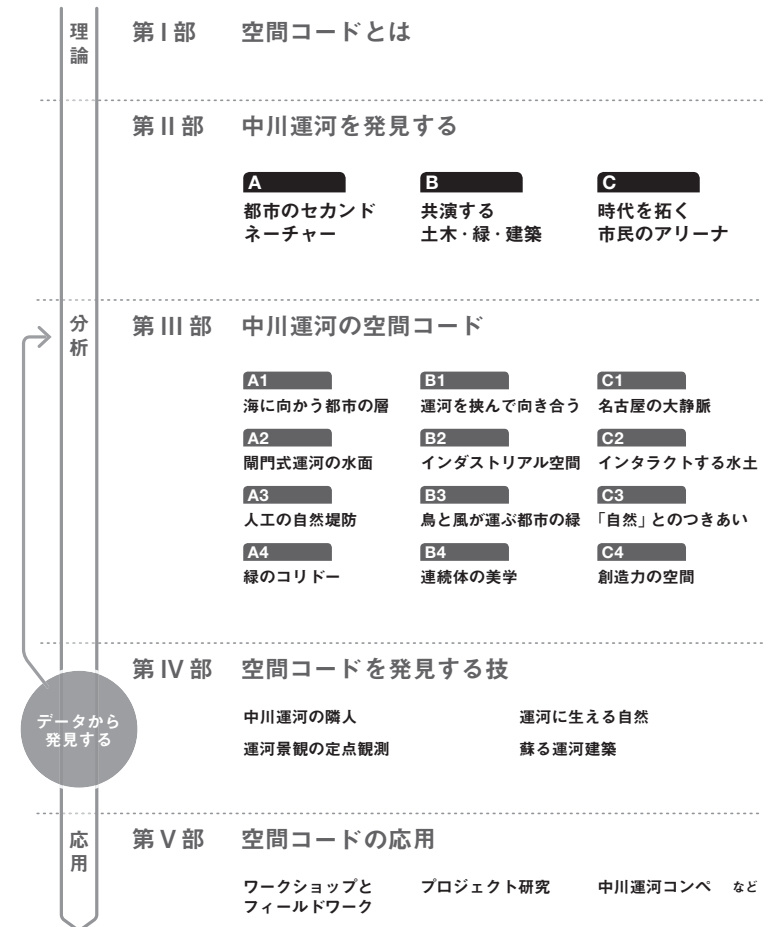
- 実質的に中川運河のことを知っている人
- 現に中川運河周辺に関わりのある活動をしている人

・議論の立て方

- 毎回コードを選定
- その場の合意形成は目指さない
- 筋書きは最小限とする

・成果の共有

- 報告書をインターネットで公開
- 当日の参加者以外へも告知する



『空間コードから共創する中川運河』
鹿島出版会, 2016年, 17頁による

第1回オープンディスカッション

テーマ：「名古屋の大静脈」の将来 C-1

- 事業活動の場としての中川運河
- 運河周辺の土地利用の在り方
- モビリティマネジメント

日時：2016年9月28日 13:30~16:00

場所：愛知大学名古屋キャンパス

登壇者：

- ・ キャナルリゾート 店長 川口真仁氏
- ・ 東邦ガス株式会社 用地開発推進部 港明開発グループ 専任部長 駒田敏行氏
- ・ 富士コーヒー株式会社 外食事業部 部長 塩澤彰規氏
(都合により当日不参加)

参加者：10名

第1回オープンディスカッション

【導かれた論点】

- 各事業者の立場からみた立地の積極的な価値
- 大規模な開発が今後の中川運河の方向性に与える影響
- 自動車によるアクセスの重要性

第2回オープンディスカッション

テーマ：「創造力の空間」であり続けるために **C-4**

- なぜ中川運河でアートか
- アートから何をめざすのか
- チャレンジのために必要な仕組み

日時：2017年2月12日 13:30~16:00

場所：西宮神社社務所

登壇者：・月灯りの移動劇場主宰 / 演出・振付・舞踏家

浅井信好氏

・作曲家 / 愛知県立芸術大学非常勤講師 /

航跡図 -artery of sound- 企画者代表 高山葉子氏

・株式会社スタジオトラス 代表取締役 /

有限会社マジックチルドレン 代表取締役 原佳希氏

参加者：36名

第2回オープンディスカッション

【導かれた論点】

- 中川運河の新たな当事者たろうとするアーティストの働きを地域の力に変えるために必要な支援とは
- 中川運河のアート活動を全体的に統括するディレクターの必要性とそのための制度づくり
- アートとものづくりの協働の可能性をふまえ、港湾地区という制約条件の下に置かれた倉庫敷地にどのような土地利用を誘導するのが効果的か

第3回オープンディスカッション

テーマ：「海に向かう都市の層」 **A-1**

- 都心と海を繋ぐ「細長い港」の可能性
- 近未来の「中川運河案内」がめざす方向

日時：2017年7月8日 14:00~16:30

場所：西宮神社社務所

登壇者：

- ・中藺昭彦氏（名古屋市住宅都市局参事）
- ・林 上氏（中部大学教授）
- ・雛元昌一郎氏（三菱地所名古屋支店統括）

参加者：33名

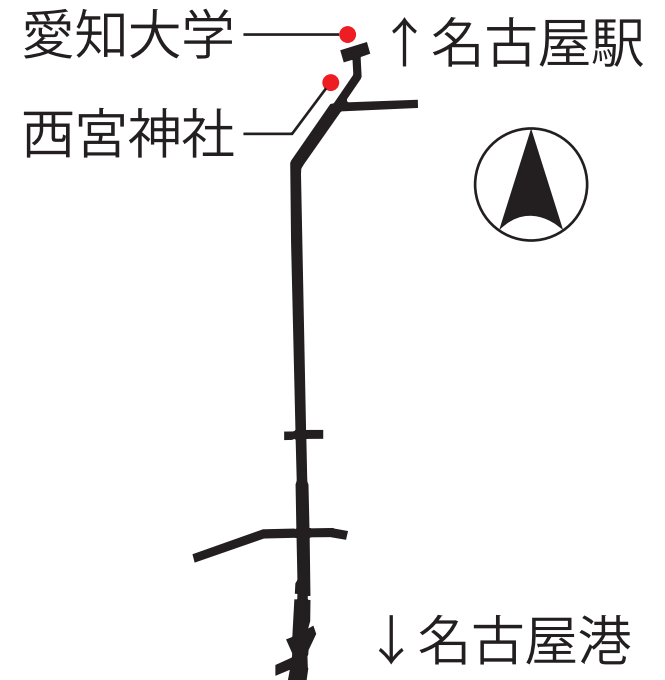
第3回オープンディスカッション

【導かれた論点】

- 長い歴史の中で中川運河を捉え、その上で将来を見据える必要性
- 多くの人々が納得しやすい文脈にそった土地利用を促し、中川運河の「勝ちパターン」を見出す
- 以前から中川運河の近くにいる住民・事業者と、新しい発想、提案を持って参加しようとする主体との接点をいかに用意するか

運河の存在を感じられる場所設定

- 第1回 愛知大学 教室
 - 中川運河沿いに進出した大学
- 第2回、3回 西宮神社社務所
 - 運河神社上の宮という歴史
 - 登壇者と参加者の近い距離
 - 地域住民との間接的つながり
 - 会場設営の手伝い
 - 近隣へのポスター掲示の依頼
 - お菓子、お茶の提供を受ける



オープンディスカッション第2回
2017年2月, 小澤勝志撮影

オープンディスカッションの成果①

- 前提条件をおかない場の設定により、各自が本音で発言する活発な議論が行われた
 - 機会を利用して発言する来場者もいた

【課題】

- 主催者側が関心があると判断した相手への周知にとどまっている。



オープンディスカッション第3回
2017年7月，小澤勝志撮影

オープンディスカッションの成果②

- ・会場における登壇者、参加者相互の交流
 - 潜在的な主体間の関係を喚起した

【課題】

- ・力になるはずであるが未だ接点のない人同士
(例：他地域の学生、沿岸事業者の従業員など)
を結び付けることは難しい。



オープンディスカッション第2回
2017年2月，小澤勝志撮影

オープンディスカッションの成果③

- 都市づくりのために、誰が、なにを合意すべきなのかという論点を提案した

【課題】

- 意識の高い一部の個人による活動から、より公共性のある議論の場へと発展させる必要性。



オープンディスカッション第2回
2017年2月, 小澤勝志撮影

終